



涙

長男坊が生まれた時、僕は妻の実家でうれし涙を流した。

金粉が入った日本酒を浴びるほど飲んだ。

五体満足でホッとした。

次男坊が生まれた時、正直長男坊より、感動は薄かった。

何故、次男坊は手がかからないのか？

日が経つにつれて、何故？の涙を流した。

二人とも歩けるようになり、僕の膝に乗るようになると、寝室で涙を流した。

僕の親父は、僕が中二の時に突然倒れて死んだ。

訳の分からない涙を流した。

何が起こったか理解出来なかった。

不安だった。これからどうなるのか？

僕が、生活に不安定な頃、母は涙を流した。

僕に訴える涙だった。

僕の恩師の囲む会があった。

非常に厳しい恩師だった。

その頃を思い出して、ボロボロ涙を流した。

その恩師が、囲む会から1年もせずに亡くなった。

無念の涙を流した。

人間は存在自体が、酷だ。

嬉しい事があると、その倍返しで悲しい事が起きる。

僕が、生まれた時、両親は泣いてくれたのだろうか？

今更聞くのも恥ずかしい。

僕が結婚した時、母は泣いた。僕も泣いた。

人間、生まれれば、必ず死を迎える。

母が亡くなれば、諦めの涙を流すだろう。

そして、孫が生まれれば、嬉し涙を流すだろう。

人生はその繰り返しか。

平凡な人生だが、平凡だから嬉しさも増すのだろう。

悲しさも増すのだろう。

そう思うと、平凡な生活に涙を流したくなる。

幸せ

今日は次男坊と進路の話をした。

あまりにも、適当。

怒る。僕はこのようにハッキリしない相談には、怒る。

しかし...他人はともかく次男坊だから怒るのも幸せ。

親バカと言われても、それも幸せ。

次男坊は、何故か2階に上がり、自分の洋服、教科書、カバン...

下と2階を行ったり来たりして、玄関に放り投げる。

どこに家出するのだろうか？明日から学校がはじまるのに。

棚から食器を出した。

どこかで、ご飯恵んでもらうのかな？

これじゃ、ホームレス中学生だ。

それで、食器を持って、どこに行くのか？

内心ハラハラ見ていると...自宅のジャーからご飯を盛り

カレーを食べてる次男坊。

僕も、妻も、母もあっけにとられる。

そして、今日曜ロードショーを見ている次男坊。

その次男坊を見ている僕はやっぱり幸せ。

生きてる

朝起きる。眠い。という事は生きている。

朝ご飯を食べる。生きている。うまい。

トイレに行く。生きてる。スッキリ。

仕事。生きている。疲れた。

晩御飯。晩酌。生きている。1日終わった。

就寝。生きている。眠い。

1日無事終了。生きている。感謝。

死

瞬間。痛いのかな？怖い。

瞬間。自分で分かるのかな？不安。

瞬間。誰か見守ってくれるのかな？本心。

瞬間。誰もいなかったら？泣けるのかな？

瞬間。僕は幸せでした。そう言いたい。

小さいままで

あ～もう一度子育てをやり直したいなあ。

いや、生まれた頃に戻ってほしいなあ。

2人とも今成長して、

長男坊は、大学生。

次男坊は中学3年生。

最近、小さな頃の2人が夢に出てくるんだ。

僕と一緒に遊んでいるんだ。

公園で遊んでるんだ。

一緒に寝てるんだ。

一緒にご飯を食べてるんだ。

早く寝たら夢に出てくるかな？

そうしたら、寝てる時間も楽しいなあ。

42歳の僕への母からの手紙

僕のパソコンのラックの上に

使い古しの封筒に入れてあった母からの手紙。

68歳の母が、42歳の息子に書いた手紙。

「上手く伝えられないから」と

僕の悪いところ。

僕の次男坊の事。

僕のいいところ。

結局伝えなかったのは、家族仲良く笑顔で暮らそう。

母なりに、回りくどく、でもそれが真正面の言葉。

そう、真正面から僕への意見。

そう、真正面からの僕への想い。

そう、真正面からの僕への願い。

ありがとう。

68歳の母へ